IGF 2023に向けた国内IGF活動活発化チーム第30回会合 発言録

2023年1月30日

【加藤】　……ということで、総務省から森下さんのお名前は拝見しておりますが。

ということで、かなりの方がお集まりのようですので、それでは、定刻になりましたので、第30回の国内IGFの活動活発化チームの会合を始めさせていただきます。

皆さん、聞こえておりますでしょうか。

【山崎】　大丈夫です。

【加藤】　山崎さん、ありがとうございます。今、議事のプログラム案を出していただいているんですが、ちょっと下のほうにスクロールしていただけますでしょうか。

宿題の進捗状況というのは、特に今、何かこれというのありましたっけ、山崎さん。

【山崎】　細かいものはあるんですけれども……。

【加藤】　今日の議題に関して大きなのは特になかったですよね。

【山崎】　そうですね。1つあるとすれば、IGF報告会のプログラムの準備状況。

【加藤】　そうですね。それは今日報告として後でカバーするということで。恐らく今日、それがメインの議題の1つになると思います。

ありがとうございます。それじゃあ進めさせていただいて、まず、ホスト政府としての検討状況なんですけれども、さっき申し上げたように、飯田様も今日も1日中別の会議でずっと時間が取れないということで連絡いただいていまして、何かアップデートいただくことがあるかということなんですが、それについても特に今のところ大きな動きがないということですので、次に移らせていただきたいんですけれども、その次のMAGの報告についても、河内さんから今日ちょっと遅れるというのが、ついさっき連絡ありました。少しお待ちして、河内さんから御報告を聞きたいと思いますが、一応3月にジュネーブでMAGの2023年度第1回が決まったということで、そのスケジュールと動きについて、特に伺えればと思っています。

ということで、次、議題に沿っていきますと、前村さん、いらっしゃいますよね。タスクフォースのほうの状況を教えていただけますでしょうか。というか、幾つか言葉でも書いていただいている点もありますけれども、最終的にテーマの選定、提案とか、その辺の状況も含めてよろしくお願いします。

【前村】　前村でございます。どういったことを御説明しようかなというところなんですけれども、聞こえていますかね。

【加藤】　はい。聞こえております。

【前村】　はい。分かりました。ありがとうございます。

【加藤】　もう前回の会議は昨年になってしまったので、そういう意味では、今後も含めて、何か前村事務局長としての御意見も含めて、ぜひよろしくお願いしたいと思います。

【前村】　ありがとうございます。前回のタスクフォースの会合が、ちょっと待ってくださいね。記憶が混濁しているということじゃないとは思うんですけれども、1月10日というのが最後の、第3回の運営委員会で、そのときには年末にブレインストーミングをして、どんなテーマを日本から出していくのがいいのかというふうなことでブレインストーミングをやって、それについて第3回の運営委員会でそれをもう少し議論しようという話になったんです。それで、ブレインストーミングとそのポイントというのは、2023年という年、タイミングというのと、日本でという、場所という、2つの軸というのが合わさったIGF 2023で、何を議論するのが一番似つかわしいのかといったところで、結構いい議論が、村井会長以下の皆さんでできたと思うんです。それで、それはそれでいい成果だったと思います。

そしてもう一つは、IGF事務局から求められているのが、実はあしたまでが受付の締切りなんですけれども、Thematic Inputというものを募集しています。どういうテーマトラックをやったらいいですかというふうな感じのインプットをやるということなんですけれども、それに対してどうやってインプットしていくのかというのを議論したと。そうすると、どういうふうに書くのが効果的かとか、そういうふうな話もあるんですけれども、いろいろな御議論をする中で、どちらかというと、日本としてどういうふうなものをやはり打ち出していくのかというふうなところが、かなりきっちり議論されていったんじゃないのかなと思います。

それで、次の第4回の運営委員会が、2月の7日というタイミングでやるんですけれども、そのときに、明日締切りのThematic Inputに関しては、私がボールを持ったまま抱えてしまっていて、どうやってあしたイグジットするかというのを今腐心しているというふうな状態になっちゃっていまして、それともう一つは、そういうふうな日本からどういうふうなワークショップを提案していくのか、あるいはオープンフォーラムを提案していくのかというふうなところの、具体的なテーマのディスカッションをやるものを、運営委員会以外にワーキンググループという形で具体的な検討をしていくのがいいんじゃないかというようなことを言っていまして、それの編成というのが、今、今後やっていかなきゃいけないことだということになっています。それに関しては、第4回の運営委員会、2月7日にそういったことを上程して、検討できるように準備を進めたいと思います。というのは、少し遅れて、実はインターセッショナルにそういうことを決めて、先に進めたかったんですが、私のほうがちょっと、そこにまだ手が回っていなかったということで、それは御理解いただきたいなと思いながら、第4回を目指して作業していっているところです。

もう一つは、会員の皆さんの募集をかけるというタイミングをしていかなきゃいけない。つまり、こういった議論、具体的な議論が進んでいますので、その議論に乗り遅れてしまうということでもよくないということなので、できるだけ早いうちに会員の募集を進めたいということなんですけれども、それを進めるための手がやっぱり足りなかったということで、これも第4回目指して準備をしていこうと思っております。

というわけで、IGFタスクフォースとしては、そういった、今検討と活動をやっているという状態だ

ということです。以上です。

【加藤】　どうもありがとうございました。御質問とかございますか。

もしすぐなければ、私から一、二点補足させていただくと……。

【前村】　お願いします。

【加藤】　この活発化チームにも大変興味がある、タスクフォースでワーキンググループをつくって、いろいろな行動、意見を取りまとめたり、今後IGF 2023でセッションを提案したりとか、そういう動きにつながっていくといいなということで検討を始めているわけですけれども、その一環で、昨年有志といいますか、このタスクフォースの運営委員会の下で、実際セミワーキンググループといいますか、こんなことを今回のテーマのインプットもそうですが、そのたたき台のたたき台みたいに議論する場が去年のクリスマス前後にあって、Slackを使いながらいろいろ意見を言って、2回ほど有志が集まって検討するという、そういうのがありましたよね。多分前村さん、ああいう動きが今後ワーキンググループの卵になっていくんでしょうかね。

【前村】　そう思います。

【加藤】　そういう意味で、まだ形式として、そういうワーキンググループをどうするかというのは、第4回、2月7日の運営委員会、またはそれ以降に決まるとして、タスクフォースでもいろいろそういう実際の活動を少しずつするといいますか、いろいろ意見が出せることを考えていくという動きがあるというのが1つだと思います。

それから、最後に少し触れられた、これから入会を働きかけるというリストなんですけれども、前回の1月10日の運営委員会ではまだその中身について細かく議論ができなくて、今前村さん言われたように、2月7日の次回、それを見てといいますか、議論するという、御準備状況によりますがということになると思うんですけれども、村井会長から、お名前を出してあれですが、どうしてもその働きかけとして、インターネット屋さんとか、サプライ側が多いという傾向になってしまうので、そうじゃなくて、マルチステークホルダーのいろいろなところに声をかければ、かけることができるといいというような御意見が多かったと思います。そういう意味で、活発化チームとしても、前村事務局長サイドでいろいろ御意見とか、こういうところを入れたらいいんじゃないでしょうかというようなことを申し上げてもいいのかなと思いますけれども、いかがですか、前村さん。

【前村】　そこから中立的にハンズオフしているわけでもないので、できるだけ効果的にやっていきたいと思います。

【加藤】　そうですよね。いろいろインプットはあるほうがいいですよね、そういう意味では。

【前村】　はい。

【加藤】　というのが今のタスクフォースの大きな流れかなというふうに私も見ますけれども、どなたか御質問とかございますか。よろしいでしょうか。

【前村】　ありがとうございました。

【加藤】　それと後でちょっと、私もさっき堀田さんがこのメーリングリストに書いていただいていたし、会議直前に拝見したので一言書いたんですけれども、タスクフォースとしては、ワーキンググループをつくろうという動きはあるが、それじゃあ、例えばNRIにこうやって参加して、自分たちがそれを引き受けるとかというのは、まだそういう動きまでには至っていないので、この将来については、その辺はまだ白紙というのが私の理解だというふうに、タスクフォース側から見てそういうふうに理解しています。

ということで、よろしければ……。

【前村】　その辺の話、その辺の捉え方というのが、あらかじめ山崎のほうからそういう設問というか、加藤さんからの御提案というのもあったと思うんですけれども、設問されたのは、皆さんも早速御意見をいろいろと出していただいていると思うんですが、その辺の捉え方というのか、の共通認識みたいなものもすり合わせていくべきだと思いますので、皆さんぜひとも、本日そういった議論もよろしくお願いします。

【加藤】　そうですね。今日のアジェンダに入れていただいたので、後でそのことも触れたいと思います。よろしくお願いします。

ということで、タスクフォースの御報告、前村さん、ありがとうございました。御質問なければ、次に行かせていただきたいと思います。

次、前村さん、山崎さん中心に御準備いただいているんですけれども、IGFの報告会、これについては前村さんにお願いするのか、山崎さんにお願いすればいいですか。今の……。

【前村】　はい。山崎がやってくれると思います。

【加藤】　山崎さん、それじゃあ、ちょっと今のプログラムを、前回議論大体した流れに沿って、今どういう状況かというのを教えていただければと思います。

【山崎】　はい。では、手短にいきたいと思います。

全体の司会は、高松さんにお引き受けいただけることになりました。挨拶は、タスクフォース副会長である江崎さんと、日本政府からどなたかということで依頼しています。江崎さんはちょっと当日御都合が悪いということで、事前に録画したものを流す予定にしています。日本政府のほうは、今のところ飯田さん御自身がお話しされるようですけれども、どなたかというふうに依頼をしているので、ちょっと具体的にどなたになるかは、この後御連絡はあるんじゃないかと思います。

IGFとは何かというのがその後のプログラムですけれども、これは前村のほうから、JPNICでインターネットガバナンスに関して作成したビデオがありまして、これを使えないかということだったんですが、そこのところ、ちょっとメーリングリストでは既に頭出ししておりますけれども、ちょっと一言説明してもらったほうがいいんじゃないかと思いますが。前村さんからちょっと説明してもらえますか。

【前村】　Internet Week Basicオンデマンドというものをjpnicでやっているんです。これ何かといいますと、Internet Weekというのは11月に毎年やっている、最近二、三年はバーチャルでやっていて、2022はオンライン、やっとハイブリッドに戻してきたというやつなんですけれども、それ以外に、現場とかリアルタイムでやること以外に、常設展というような別な言い方もしたんですが、ユーチューブの動画のコンテンツとして品ぞろえをして、ベーシックなものに関してはこれを見て勉強してくださいというふうなもののラインナップの中に、インターネットガバナンスというものを入れたんです。もう一つは、インターネットガバナンスに関して4連作にして、少しずつ、基盤のガバナンスからインターネット用のガバナンスまで、少しずつ読んでいっていただけるようにしていると。結果、つくってみたら、インターネット上のガバナンス、IGFというものの説明が、ほかのところは何か10分ぐらいで終わっているのに、ここだけ30分になってしまっているんですけれども、ただ、結構説明はその分だけ丁寧にできていると言えば丁寧にできているものですので、こちらが使えるとうれしいなというか、ありがたいなというか、それで済むと、ちょっとほかのこともいろいろとやらなきゃいけないことはあるので、そちらのほうに手が回せるので、ありがたいなと思うところで、皆さんにお伺いしたところです。

以上です。

【加藤】　ありがとうございます。まず、その点について伺ったほうがいいですか。それともずっと全部やってしまいますか、山崎さん。

【山崎】　もう、今お伺いしていただいたほうがいいんじゃないかと思います。

【加藤】　分かりました。今のビデオについては、早速実積先生からも、これいいというコメントがたしか出ていたと思うんですが、皆さん、いかがですか。そうやってつくっても、皆さんの目に、御批判に堪えているものというのは非常に有用だと思うんですけれども、前村さんも、時間的にも30分というのは適当な時間ですよね。

【前村】　そうですね。4連作全部やっても、見ても1時間ぐらいで収まっていますので。

【加藤】　全部を1時間というのはちょっとあれかもしれないですけれども。

高松さん、お願いします。

【高松】　すみません。質問で、このニューカマー向けのビデオのあるセッションは、最初にそのビデオを流して、何かこう質疑をするとか、そんなイメージでしょうか。一応全体司会はするんですけれども、このパートはどなたが進行されるのかなというのが気になっての確認でした。

以上です。

【加藤】　私の理解は、前村さんがパワーポイントを使いながら説明するところにビデオを主に使うという、そんなイメージだったんですけれども、前村さん、いかがですか。

【前村】　私もそれくらいで思っていて、ビデオのインタラクティビティーはちょっと落ちるんですが、それくらいで、後は料理の仕方というのはありかなと思っていたんですけれども、いかがですか。

【加藤】　どうぞ。高松さん、お願いします。

【高松】　この進め方でよいのかなと思いました。実際当日参加される層とかも分からないので、何というか、実際にパワポのほうの説明ビデオを流したときのリアクションみたいなのを見ながら、前村さんのほうで進めていただくのが、場としても一番よくなるんじゃないかなと思っています。

以上です。

【加藤】　前回のこの活発化チームの会合でも、前村さんが会場とか参加者の反応を見ながら、必要な程度にはしょるか、詳しくやるかというのをコントロールしていただくということで、今のビデオをベースにしながら、フォローアップのところを、もし質問があればそれに当然前村さんがさばいていただく、さらには状況を見て追加していただくというふうなイメージでいかがでしょうか。

30分って書いてありますけれども、収まるかどうかというその辺の進行等は、山崎さん、全体の時間との関係で予想しておく必要があるかなとは思うんですが。

【山崎】　そうですね。ビデオを流すのがどれぐらいになるのかというところが、ちょっとまだ把握できていないんですけれども、これは、これ30分丸々使うわけではないですよね。

【前村】　編集するのかな。

【加藤】　そこをどうしますか、前村さん。今、その4だけでも結構長いですよね。

【前村】　そうですね。30分超えています。

【加藤】　うん。

【山崎】　そうすると、スライドだけで説明するか、短縮版をつくるか、どっちかが必要ということですね。

【加藤】　一部切っちゃうという手もあるかもしれないですよね。

【山崎】　そうですね。スライド、ビデオのスライドを使ってつくるというのは1つの手かもしれないですね。それは我々のほうで検討して、時間内に収まるようにしたいと思います。

【加藤】　トータルの時間配分として、やっぱりここが30分、IGFとは何か、30分が限度ぐらいなイメージですか。

【山崎】　そうですね。

【加藤】　そこはちょっと前村さん、山崎さんにお任せするということでいいですか。いずれにしても、高松さんの御質問については、前村さんがこの部分はコーディネートするということになると思うんですけれども。

実積先生、お願いします。

【実積】　すみません、実積です。こういう資料を要求したのは、多分僕の発言がベースだと思っているんです。正直に言うと、多分この日に、平日にやられるので、ニューカマーは来ないと思っています。この場には。

なぜ頂いたかというと、ほかのところに説明するときに、IGFがどういうものであるかというのを簡単にまとまったものがあるとやりやすいということなので、お願いしたときの趣旨は、説明会ではなくて全然別のところで使うということを想定しています。なので、全体の時間が恐らく限られている中で、あのビデオを30分流すというのは多分無駄だと思いますし、こういうビデオがここにありますという情報だけを共有していただければ、あとは勝手に見とけというので、僕は十分だと思っています。

【加藤】　ありがとうございます。大変ヘルプフルなコメントで。ということは前村さん、やっぱりこういうビデオがあるといって最初ちょっとお見せいただいて、その中のスライドをかいつまんで、前村さんの言葉でしゃべっていただくというイメージですか。

【前村】　はい、そうですね。

【加藤】　ビデオと同じ内容でもいいわけですけれども。

【前村】　そうですね。扱い方が全てを左右するような気がしますけれども。

【加藤】　そうですね。

【前村】　はい。分かりました。

【加藤】　ありがとうございます。それじゃあ、ちょっとそういうふうにしていただくということで、山崎さんにお戻しします。その後の流れですね。

【山崎】　あとは参加者による報告なんですけれども、大体お願いした方には皆さんお引き受けいただけると思うんですが、高松さん、堀田さんは前回、この日は基本的にNGだけれども、この5分か10分は何とか都合がつけられるとおっしゃっていたと思うんですが、それはまだ生きているという理解でよいですか。

【高松】　すみません、高松です。時間が何時になるかによるという程度に。予定がありまして。

【山崎】　じゃあ、すみません。今日できていればよかったんですけれども、タイムテーブルとして何時何分から何時何分までというのをつくって、それが堀田さんはこれぐらいになりそうだからそれでよいかというのをお伺いすればよいということですね。

【高松】　はい、そうですね。

【山崎】　それは追ってやります。実積先生が手を挙げていらっしゃいますが、どうぞ。

【加藤】　さっきのですね。

【実積】　下ろし損ねです。

【加藤】　そうですね。

【山崎】　あとは、そうですね。全体概要とフラグメンテーションというところが、ちょっとまだ詰められていなくて、それは私と前村のほうで詰めるようにしたいと思います。

【加藤】　何か前村さん、全体概要というのは何人ぐらい出てどんな感じだったと、現地の声を言っていただくということですよね。

【前村】　そんな感じです。サマリーレポートのドラフトでなくなったものが出てきましたので、あれをベースにするという感じだと思っています。

【加藤】　そうですね。分かりました。お手数をおかけしますが、よろしくお願いします。

【山崎】　各発表者には大体5分から7分程度というお願いをしてありますので、時間オーバーはなるべくしないで、進められるかなと思っています。

最後、質疑応答と今後に向けてのパートですけれども、ここのモデレーターは上村さんにお願いをするというふうに前回なっていましたが、お願いしてお時間いただけるということになりましたけれども、何を打ち出すのか明確というところは、ここに書いてある以上にそれほど進んではいないんですが、上村さん、いらっしゃっていますよね。

【上村】　はい、います。

【山崎】　ちょっとここは全部クリアじゃないということなのかもしれないですけれども、もうちょっとここを特に明確にしてほしいというのがもしありましたら。

【上村】　そうなんです。そうなんですけれども、その前にちょっと幾つか質問があって、これ後に話す話題だと思うんですが、この催しの主催が誰かによって私の動きも変わってくると思うので、そこ次第の想定問答になるということをまずお断りして、この話をすることになると思います。

それから、ちょっとさっきの挨拶ですけれども、やっぱりこの催しの主催者たる人が、司会とは別に挨拶したほうがいいんじゃないかという気がするので、今のままだとお客さんが2人挨拶するというだけですよね。なので、ちょっとそこは考えたほうがいいんじゃないかと思いますという、その2点を含めた想定問答ということになるんじゃないかと思いますが。ただ、想定問答といっても、私も何したらいいんですかという状態なので、ちょっとどうしたらいいんですか。ここは誰か登壇する人がいるんですよね。小林さん。

【山崎】　小林さんは上の発表者にいなかった方で追加ということ。基本的には第2部といいますか、参加者が残って議論に参加いただくということを想定しています。

【上村】　ああ、なるほど。じゃあ、私が一人一人どうしたらいいですかって聞いて回ればいいですか。

【山崎】　そうね。ですから、順番はお任せしますけれども、最初に参加者から質疑応答を受けて、それを受けて、また上村さんから質問していただいてもいいですし、小林さんに先に話していただい

てもいいですし、ですから、IGFにセッションを提案した立場で小林さんに話していただく、で、道中どんな内容を議論するかで、それでいいのかIGFといったあたりが3本柱かなというところが、前回出た議論の柱かなと思っております。

【上村】　それを伺って思い出しましたけれども、このIGF 2023に向けた提言の議論って書いてありますが、何か提言をこのチームとして、違うか、何だろう、日本のコミュニティーとしてする、したいということなんですか。ちょっとこの提言という言葉に最初引っかかったんですけれども。あまり深い意味はなくて、今聞いた3点がその提言ということ、提言に関する3点を確保すれば提言に関する議論をしたということになるんでしょうか。

【山崎】　どちらかというと、3点のうち2番目と3番目ですね。1番目は、何といいますか、テクニック的なものなので、提言の内容には直接ならないですけれども、2番目、3番目、特に2番目ですか。日本でやるんだったら、日本独自でこういうものを提案したらいいんじゃないかとかというのがあればという、そういう内容になると思うんですけれども。ただ、これまでその辺りの議論を積み上げているわけではないので、タイムリーに実際に反映できる内容が打ち出せるかというのは、かなり際どいところではあるかもしれませんが。

【上村】　これ、Thematic Inputはあした締切りとか、そういう話になっていましたよね。

【山崎】　あしたが締切りですね、はい。

【上村】　今後、何だろう、例えば日本政府が仕込むセッションとかが仮にあったときに、全てそこにインプットするとか、そういうほかのルートで行くとしたら、どういう……。

【山崎】　パスがあるか。

【上村】　どういうパスがどういうタイムラグで動いているのかどうかって、何か分かりますか。あるいは分からないまでも、何かありそうだという話であれば、そういうことを狙ってという議論もできるでしょうけれども。

【山崎】　タスクフォースで出た話だと記憶していますけれども、例えばDay 0で何か仕込めるのではないかという話はありました。で、あとは、これはちょっと私の思いつきですけれども、NRIセッションが幾つか予定されているようです。ですから、その中に何か1つねじ込むことはできないかとか、何とか、あまりメインのプログラムに押し込むことは難しいとしても、何かしらパスはなくはないのではないかという感じですかね。

【上村】　なるほど。

【加藤】　スケジュールとして、3月の8日から10日ですか、次のMAG会議があって、その次に今回のテーマ、どの分野を主にやっていくかというようなことを事務局が取りまとめた後、MAGの後、それじゃあ具体的なセッションの提案募集というのが、もう3月末か4月には、例年のスケジュールでいうとあると思うんです。そのときにどういう形で、認められるかどうかは別にして、日本からこういうのを出していこうよというようなことをこのところで議論できれば、結構前向きな議論になるのかなという気もします。だから、今年参加された方がそこにパネルでいらっしゃるわけですから、そういう

方々からまず意見を伺って、あとさらに議論を深めていただいて、聴衆からも意見をいただくという、そういうことになるのかなと思います。

【上村】　ちょっと2回ぐらいこの場をすっ飛ばしていて、間の議論についていけていなかったら申し訳ないんですけれども、10月に行ったフォーラムでは、何かこう、いわゆるというか、いかにもIGF的なテーマをぶつけるより、もうちょっと未来志向で、何かこう若者中心になって議論できるような話題を持っていったらいいんじゃないかという話があったと思うんです。メタバースだけではなくて、新しいコミュニケーションツールの使い方みたいな、そういうことを考えると、先ほどお名前の挙がっていらっしゃった方一人一人にどうですかと聞くと、何かそういう方向にならないような予感がしたりもするんですけれども、そうでもないかな。と言ったら失礼かもしれませんが。何かそういう意味では、まあいいや、この場で相談することじゃないかもしれませんけれども。

【加藤】　だけれども、それはそういうことを言っていただけばいいのと、もう一つは、ちょっとこれ僕どのタイミングで出すといいかなと思ったんですが、前村さんもいらっしゃるのであれですけれども、小林さんがかなり取り仕切っていただいて、JANOG51というのが先週あって、ユースの方が結構積極的にIGFに議論しているような内容を、いろいろ問題意識を出していただいたんです。これ結構面白かったなと思っているんですけれども、例えば中国から日本にいらしている方が、中国では検閲があって言論の自由がないとか、そんな話が飛び出したりとか。だから、何かこの、そのときに私も最後に、2月9日にこの報告会というのがありますと言ったので、何かそういうような方が、もし小林さんがこの会議、ここで参加されれば、そんなようなことをむしろ中心的に言っていただけるのかなという気がしました。非常にユースが活発に意見をしていただいたというのがよかったなと思っているんですけれども、前村さん、いかがですか。

【前村】　うーん、そうですね。

【加藤】　前村さん。の上村さんの御懸念でいうと、何かそういうことがありますねというのを、もし小林さんなんかもここで入っていれば。

【前村】　そうですね。あのときのテーマ出しというのか、生徒の皆さんの問題意識のテーブルとか、とってもいい材料になるとは思うんです。

【加藤】　そうですよね。

【前村】　何らかの形であそこのBoFの、JANOG野良BoFの議論が、こっちに誘導してこられるとすてきだなとは思います。

【加藤】　だからそんな感じの議論がここの場でもできるといいということで、別に参加される方は同じになるかどうかは別にして、できるのかなと思います。特にユースがというのがよかったです。

【上村】　そういう意味では小林さんに、以前の報告だか、プレゼンというのはきっと私も見たことあるやつじゃないかと思うんですが、それをしてもらうよりは、JANOGのBoFでどんな話したんですかということを聞いたほうがいいんじゃないですか。

【加藤】　僕も今、そんな感じがします。もう一度IGFでどういうふうにやるんだというコツの話とか

というよりは、もう少し具体的な話に行ったほうがいいような気がします。

【上村】　ちょっとこの時間、この60分で何を狙っているのか、まだピンと来ていないんですけれども、何となくセッション提案するノウハウを学びましょうという目的はそんなに大きくないような印象を持ちましたので、ちょっと本当、3段階ぐらい下げても、小さくしても、そのほうがいいかなと思ったという感じです。あと、それでいいのかIGFはあってもいいのかも、あってもいいかもしれないです。それは置いておきますか。

じゃあその3点のうち、後半の2つ目と京都で議論、京都というか、サブスタンス的に日本から何か発信するとしたらどういう方向かというのに関する内容と、IGFの枠組み的なことについて、その2つを、その2つについて皆さんにいろいろ聞くということですか。

【加藤】　そうですね。

【山崎】　そうですね。今おっしゃっていただいたことは最大限盛り込みたいと思います。その方向性で私はいいんじゃないかと思いましたけれども、ほかの皆さんはいかがでしょう。

【前村】　そうするとあれですよね。ここで議論した、そういうふうな議論、議論というのか、テーマもあるよねみたいなことを言ったのが、ワークショッププロポーザルに育っていくみたいなことを期待するという感じなんですかね。

【上村】　ワークショッププロポーザルより、もうちょっと優先トラックにできませんか。ぶっちゃけたことを考えると。つまり、総務省が若手を呼ぶということになったら、この場にいた人を呼ぶぐらいの、何か、こういう経験にもなると思うので、そういうことでもないと毎回同じ議論を繰り返しちゃう気がします。

なので、ちょっと今極端な言い方をしましたけれども、それが駄目ならワークショップも手なのかもしれませんが、何かここで議論積み重ねて、じゃあ一からイコールフッティングで競争してくださいというのは何かちょっとなって、私も近年省エネを考えるようになってきたので、思います。

【加藤】　さっき高松さんが手を挙げていらしたのは、あれは前のですか。

【高松】　すみません。高松です。日本、京都で議論する内容についてのところで、その場の、この60分の場に、今この日本の中でIGF 2023にどういうセッションをとか、どういう提言ができればというのを考えているのはタスクフォースの方なのかなと思ったので、その立場から意見とかを積極的に言える方がいらっしゃると、何というか、この60分の場がある意味意味のあるというか、盛り上がる、参加の人もちょっとイメージしやすいような結論にといったほうに持っていけるのかなというふうに想像したので、コメントです。

【上村】　外野だから、ここで盛り上がってもしようがないんですね。なるほど。

【加藤】　いや、外野ということはないと思います。外野というのはどういう意味ですか。

【上村】　外野というか、ワンクッションあるということですよね、そういえば。ちょっとその辺の

認識が甘かったです。

【加藤】　いや、タスクフォースというのは多分、タスクフォースに1回伝えて、タスクフォースから言ってもらうという意味ですか、それは。

【上村】　はい。

【加藤】　いやそれは、そういう意味では、タスクフォース経由でしかコメントできないということもないわけだし、恐らくセッションの申込みということになると、それはもう個人として申し込んだりすることになるので、ワンクッションが必ずしも必要ということはないと思うんですけれども、前村さん、いかがですか、そこは。

【前村】　とてもいいポイントだと思うんですけれども、確かにタスクフォースというところは、ここに一番上の、今見えているようにある提言みたいなことを打ち出そうとしているわけです。それで、IGF 2023に何を話し合うのがいいのかということを議論していたりするわけです。それで、活発化チームでもというか、こういうふうな報告会みたいな機会を捉えてそういうような議論をするんであれば、これは、ここでやった議論はタスクフォースでちゃんと勘案して、前に進めるような感じで考えましょうというふうなことを、ちょっとこれ整流しておいたほうがいいかもしれないです。あらかじめ。別に2つで、何でしょう、別々のことをやる必要がなく、むしろ統合、インテグレートされた活動にしていく、なっていくべきだと思いますので、そういうふうにちょっとうまいこと、加藤さんと私、あるいは立石さんと一緒に。

【加藤】　立石さん、手を挙げていらっしゃるんです。立石さん、お願いします。

【立石】　すみません、別の会議があったのでちょっと遅れました。私は、そこは必ずしも整合性はないというか、別にタスクフォースとうまく一緒に、できればいいですけれども、できなかったら僕はここの活性化委員会のほうで、活発化委員会か、でセッションを、別にタスクフォース経由で出すわけじゃなく、直接出してもいいと思うんです。もしそれが。もちろんタスクフォースの、私もそっちのメンバーですし、整合性取れるようにとか、一緒にやれるようにはしたほうがいいとは思いますけれども、何らかの理由でそこがうまく合わなかったとしても、それを出さないとか、出すなとかいう話ではなくて、これはこことして出せばいいんじゃないかなと。そこまで拘束力はないし、僕らもそう、タスクフォースとしての冠でいけばそんなつもりもないので、ここはここでもし盛り上がったら、それはそれで別に出したのでいいと私は個人的には思っています。

【前村】　それはそれでトゥルーだと思います。だから何か、強制して一緒になれとかというのもあれですし、いいアイデアだと思えば乗っかるんでしょうし。

【加藤】　よろしいですか。私も基本的には立石さん言われたような理解でいたんですけれども、逆に言うと、活発化チームもそうですし、タスクフォースもそうだと思うんですが、これで全部意見を1つに統一して、このことを言えというためのものじゃなくて、これIGFの精神そのものがそうだと思うんですけれども、いろいろな人を、いろいろな意見を聞く場をつくる、提供するというのがこの活動だと思うんです。タスクフォースとしてのまとまった意見ですとか、活発化チームとしてまとまった意見でこういう立場ですということを今まで特に言ってきたんじゃなくて、その中でいろいろな人がマ

ルチステークホルダーで議論してIGFに参加するという、それをお助けするというか、そういう場だと思っていて、これは多分タスクフォースでも、必要であればまた申し上げますけれども、そういう考えでやったほうがいいと思うんです。

だから、そもそもタスクフォースと活発化チームが一緒になるとか、両方を1つにまとめて何かを言うという、そういうことというのは、IGFという趣旨からしてあまり考えないほうがいいのかなと。ただ、タスクフォースとして特にこれとこれとこれを今回押しましょうという、そういうのは枠の数が決まっていればそういうのあるかもしれないので、それは声の強さを変えるとしても、それじゃあ、そこで落ちたからほかの人はもう言っちゃいけないということはなくて、いろいろな場でもっと言えばいいと思っていますけれども。

【前村】　加藤さん、ありがとうございます。前村ですけれども、そうですね、さっきの私の最初の言い方は、タスクフォースに大統合していこうぜというふうに聞こえたかもしれないんですが、今の加藤さんのおっしゃり方、確かにもうもっともそのとおりだなと思いました。

【加藤】　ありがとうございます。

【前村】　ただ、この報告会でこういうふうな議論をして、こういうふうな提案というのがありましたよというようなのは共有して、それで、それをタスクフォースで共感するかもしれないし、別のことを考えるかもしれないしというのは、それはそれで別途あっていいんじゃないのかなと思ったということです。ありがとうございます。

【加藤】　これもちょっと余談というか、余計ではあるかもしれないですけれども、タスクフォースに活発化チームがうまく今後協力していくという意味も、タスクフォースという場が、そういうIGFといういろいろな活動を支えるための場であって、そこでいろいろ出てくる意見を何かまとめるとか、強制的に1つにするための場では別になくて、それはそれで、それぞれのワークショップ、ワーキンググループがいろいろな意見を言うと。それが活発になればいいというのが活発化チームの趣旨ですし、タスクフォースも恐らく同じ趣旨だと思うんです。だから、融合していくというのは、そういうことを支えるチームといいますか、組織が融合していくというのはそうなんですけれども、そこで出てくる意見はいろいろ、むしろもっともっと多様化するというのがIGFの本来の動きかなと私は思っています。

よろしいでしょうか、そこ。ということで、何かぜひ、ここのセッションで上村さんがぜひいろいろな意見をむしろ引き出していただいて、タスクフォースのほうでもいろいろこんなのを言っているというのも、ぜひ前村さんや、もし小林さんもお出になれば、小林さんはタスクフォースのほうの、結構活動に参加されたりされ、そういうことも言っていただけるというふうに感じます。

上村さん、それで何かまとめていただけますか。

【上村】　まあ何となく、はい、分かりました。ゴールは何かってワークショップ提案ではないと思うんですけれども、ワークショップ提案したい人ができる自信を得ることとか、多分そういう表現じゃないかと思うんですが。

【加藤】　そうですね。

【上村】　じゃあ、ちゃんと分かったことにします。

【加藤】　ゴールという意味は、このセッションで何ができればいいというのですね。

【上村】　そうですね。60分の。

【加藤】　だからワークショップ提案というよりは、日本としてこういうことを言いたいというような人がなるべく多く出てきて、IGFの価値を見いだしていただけるような、盛り上がりのあるセッションにできればいいというのがゴールなんじゃないですか。

【上村】　ごめんなさい。そういう意味では、もう一つはやっぱりこうちゃんと、何だろう、2023のIGFで、日本主導で議論されるべきテーマを上部団体にインプットするということがゴールなんじゃないですか。

【加藤】　そうですね。そういうものが具体的に出てくればね。そうですね。だからタスクフォースにも提案すると。

【上村】　了解ですけれども、これ、私がどういう立場で今回参加すればいいのかというのが、多分誰の名義でこの催しをするかということに関わるので。

【加藤】　そこちょっとやりますか、議論というか。

【上村】　いや、今でなくて、順番に沿ってで構わないので。

【加藤】　いや、もうほぼ。いかがですか、山崎さん。

【山崎】　前回のこの活発化チーム会合で、このIGF報告会は活発化チームが主催するということになっています。だから、そうでない団体が共催するとか、そういうことはないです。ですから、秋に、10月にあった日本インターネット・ガバナンス・フォーラム2022と同じ開催形態です。

【加藤】　すみません。上村さん、今の御説明どおりと私も理解していまして、そういう意味でちょっと、これは余計なあれですけれども、今上村さんから御提案いただいた最初の挨拶のところですが、上村さんのお顔を拝見して、前回の日本の10月の会で、いきなり会津さんから説明がないというコメントがあったわけですけれども、そういう意味で、頭出しのところで一言報告会の趣旨みたいなのを、皆さんのお許しいただければ、私が最初御説明、一言御挨拶をさせていただいて、こういう会で今年こういう流れの中で報告をすると。今日、今後は高松さんに総合司会をお願いした上で、お二人のゲストの方からお話をいただきますというぐらいのことを簡単に説明させていただくのはいかがでしょうか。

【上村】　説明させていただくというのは……。

【加藤】　挨拶をさせていただくという。一番最初の挨拶の頭出しを私がさせていただくというふうに。

【上村】　そういうのがあったほうがよろしいんじゃないでしょうか。

【加藤】　主催者が挨拶すべきという意見があるというふうに書いていただいているのをもう先取り

して、今のようにさせていただきますというふうに申し上げたんですけれども。

【上村】　すみません。この報告会自体はチーム主催なんでしょうけれども、私が気づいたのはそれではなくて、この会合の主催がいつまでもJAIPAやJPNICではまずいのではないかということもありまして。というのは、何だろう。

【加藤】　ああ、活発化チーム会合のほうですね。

【上村】　なので、この報告会自体が前回と同じということであったら結構ですし、だったらそれに合わせて、そろそろ活発化チームも独り立ちさせなければならないタイミングではなかろうかと思ったりします。

【加藤】　そこは、前村さん、どうですか。

【前村】　私自身、何でしょう、JPNICとしては、とても何でしょう、一人称でこれを支えると思っていていいんですけれども、活発化チームで主催というふうな言い方というのは、実は日本インターネットガバナンスフォーラム2022というところでもう既にやっていて、全然その活発化チームとして自意識があって、私がやるんだというふうな体を取るというのは、全然違和感がないです。何かいろいろな関わり合いで、今までJAIPAとJPNICが共催をするというふうなフォーメーションを取ったほうが、ある局面では都合がいいというところもあり、実際問題JPNIC、JAIPAのチャネルで告知が行くというところも効果はあったと思うんです。それを何らかの形で今からリテインするというのはもちろんできることもありますしということで、その辺は自由に考え、あるべき姿を考えればいいのかなと思います。

【加藤】　皆さん、これ御意見ありますか、ほかに。

【山崎】　山崎ですけれども、木村さんにも一応御意見を伺ったほうがいいです。

【加藤】　そうですね。木村さんおいでになっているんですね。

【木村】　ありがとうございます。木村です。JAIPAの手を離れることは全然賛成です。ただ、予算……。

【加藤】　そう言われるとすごいショックなんですけれども。

【木村】　うれしいんですけれども、予算って大丈夫なんですかと。報告会開くのだって予算がかかりますし、活発化チームってそういう予算持っていませんよねという心配はあります。

【上村】　私が思うのが、名前を出せなくなって潰れちゃって困るんだったら、その実質的なところは続けていただかないと困るということだと思うんですけれども、やっぱりこう、今入れ子にメンバーセットがなっているわけです。タスクフォースは。それはやっぱり外から見ておかしいので、そこをどう評価するかだと思うんですけれども、そうはいっても、実を取らねば進まないから名を捨てるという判断もあるのかもしれませんが、ちょっと私は、そういうのだと今後よくないんじゃないかなという気がしますので、そのようなことを申し上げた次第です。

【前村】　すみません、上村さん。入れ子とさっきもおっしゃったような気がしていて、何だろうな……。

【上村】　タスクフォースのメンバーである活発化チームが、JPNICとJAIPAが主催しているという状態はどう考えてもおかしいので。

【前村】　なるほどね。

【上村】　親子上場しているようなもんじゃないですか。親子上場は許されていたかもしれませんけれども。だから、それはやっぱり変ですよ。

【前村】　分かりました。

【上村】　そんな難しいことは言っていなくて、そこだけで。ただ、そうやって名前を取り下げたときに、JAIPAもJPNICも今までの支援打ち切らなければなりませんということになったら困るので、それはまあいいかなとは思いました。

【前村】　私のポイントは何かというと、例えば、今の上村さんのおっしゃり方だと、活発化チームはJAIPAとJPNICの子会社であるみたいなことを言われたような気がして、いや、そうじゃないんだよなと思っているんです。なので、ちょっと捉え……。

【上村】　主催って、主催ですから。その2つの団体の意思がないと、このチームが、会合がなりませんよというのが主催という意味じゃないですか。だから、ちょっとそこは私はあまり軽く考えるべきじゃないと思います。ごめんなさい、先に言っちゃいました。

【前村】　いえいえ、分かりました。ちょっと私の中の、頭の中の整理がちょっと必要だなと思いながら、すみません。ちょっと時間が要ります。

【加藤】　確かに、ロジカルには……。あっ、本田さんの手が挙がりました。

お願いします、本田さん。

【本田】　私のというか、これあんまり深く議論してこなかったので、多分人によってそれぞれだと思うんですけれども、一応その活発化チームというのは、結局法人化するという話をしていたんですが、できなかったわけなので、今の時点では個人の集まりというか、各団体も含め融合している、緩くつながっているという、任意団体というふうな認識でいます。そこに、JAIPA、JPNICの名前が入ってきているというんですけれども、それはあくまで、何というんでしょうか、協賛ではないが、活発化チームのメンバー出しもしてくれているし、資金的なバックアップ、かかる経費の負担をしてくれているというところなので、じゃあJPNIC、JAIPAの意向が活発化チームの中にダイレクトに何か反映されているかというと、別にそういうわけでもないし、仮にJAIPA、JPNICが、後出しの別の団体ですね、言ってみれば。タスクフォースに入っているときに、活発化チームと別の考えを言いますかということもあり得るわけで、ちょっとそこは確かにはっきりしないなとは思いますけれども、別に活発化チームのところの資金、資金援助というか、ある意味後ろ楯になってくれている部分であるので、それを一気に解消しようとするというのは、後から出てきたタスクフォースのために、それを一気に解消しようと

するというのは、やや、何というんでしょうか、ちょっと、気を急ぎ過ぎるんじゃないかなという気がしますけれども。私の認識はそうだということだけですけれども。

【加藤】　ありがとうございます。これ前村さんと木村さんいらっしゃるのであれですけれども、もし活発化チームが主催する活発化チーム会合という書き方になると、別にJAIPAさん、JPNICさんの支援がなくなるということではないですよね、今。それで何かが変わるということでは。

【前村】　JPNICの回答はそのとおりです。

【加藤】　そうですよね。

【前村】　喜んで下支えしようと思っています。

【加藤】　もともと主催と言ってきたときに、やはり主催、いろいろな後援とかいうようなことがあって、法人格がないところが主催というのはおかしいというような議論もやっぱりあって、ずっとこのフォーマットになっていたということですかね、これ。

【前村】　そうですね。最初はこういうふうな、共催みたいな形にし始めたのがどういう経緯だったのか、ちょっと失念いたしておりますけれども。

【加藤】　そうですね。

【前村】　私自身は別に、これを主催するということでなければならない何かというのはなくて、国内のインターネットガバナンスの議論を盛り上げていくというのが事業内容にあって、それをやるべきだと思っていますのでやっているということで。そこは大丈夫です。

【加藤】　上村さんがおっしゃる点、確かに回りから見ると、ロジカルにおかしいんじゃないかと思われる可能性があるのですけれども、ちょっと経緯も含めてもう1回検討して、次回決定するということではまずいですか。経緯があったんじゃないかという気もしますので。

【前村】　なるほど。

【上村】　じゃあ次回ということでいいですけれども、経緯というと、そもそもそれを言い出したのも多分私なのですが、こんなに長もちするものだと思っていなかったので。

【加藤】　そうなんですか。

【上村】　早々に解消したいという気持ちが私は非常に強いです。

【加藤】　分かりました。

【上村】　ただ、今度の催しはチームの主催であるということで、お引き受けしたことについては、そのとおりお引き受けします。

【加藤】　分かりました。

【前村】　もう一つ、JPNICが主催して活発化チームをやるというふうなことも、JAIPAさんと共催するということも、それも何かちょっとしっくりこないところというのはありますよね。みんなでやっているんじゃないのというふうなことなので、今までは何かのきっかけがあってそういうような構成にしていたけれども、活発化チームが主催ということで、JPNICとしてはこれからも支援いたしますということでやっていただくというののほうが、よほどしっくりくるということなのであれば、それで構わないと思うんですけれども。私は組織の中で同様のことはできると思います。

【加藤】　立石さん、手を挙げていただいていますね。

【立石】　私も上村さんのおっしゃっていることも、それこそ過去の経緯からいえばこだわる理由も分からなくはないので、確かにそこは主催という言葉じゃなくて、何か別の修辞形でいいんであればそうしてもいいかなとは思います。ただ、だからといって、別にJAIPAもそんな潤沢の予算はないですけれども、お手伝いできるところはお手伝いするという形で、それはいいのではないかなと私も思っています。そんな感じです。

【加藤】　ありがとうございます。

【前村】　立石さん、ありがとうございます。

【加藤】　本田さん、また新しい手でしょうか。

【本田】　はい、そうです。感じ方が多分違うので、私の言っていることも逆にとんちんかんだったら申し訳ないんですけれども、まず今の話をお聞きしていて、主催からは外れてもらうんだが、お金は出してくれみたいな、援助はしてくださいみたいな、それだったら、じゃあ共催なのか、それとも協賛なのか、何なのかになるのかなと思ったのが単純な質問というか、疑問というところと、逆に名前を出さないということのほうが不透明感があるかなと。だったら別に今の主催のところで、共催、主体性はこの活発化チームにあるんだけれども、組織として入っていただくという部分は必要、逆に必要じゃないかなと思うのが1点と、もう一つは、あんまり考えたくはないんですが、万が一何か法務的な問題とか、金銭的解決が求められるような問題が仮に発生したときに、今のままの当座任意団体、将来は分かりませんけれども、今のところは任意団体で、誰に責任が来ても困るような話になってしまうと困るなというのがあるので、ある意味そういった部分も含めての後ろ楯というか、たしか以前リーガル的なこととか、ちょっと失念しましたが、そういうことのチェックとかをしていただいたようなこともあったような気がするので、そういう、より組織的なものがJAIPA、JPNICにはあるので、そういうリソースとして活用させていただく意味でも、別にここの主催、主催というのではないんだけれども、何か共催というような形の連合体としての開催の仕方は、別に今後も必要ではないかと。やむを得ないのではないかと思います。

【加藤】　ありがとうございます。立石さん、まだ。

【立石】　それで、ちょっとさっき言い忘れたんですけれども、今本田さんがおっしゃったので思い出したんですが、あれです。多分問題になるとすると、総務省さんに後援をもらったりするときにはちょっと大変だと。

【加藤】　そうですね。

【立石】　そこ、具体的にはそこが、今もし何かするとすると困るのかなというところは感じました。

以上です。

【加藤】　それは前回の会議でも、10月の会議でも、総務省さんが後援ということもなくなって、議論はそこで終わったように記憶しているんです。山崎さん、手を挙げられようとされていましたけれども。

【山崎】　今、加藤さんがおっしゃったことで尽きています。

【加藤】　ありがとうございます。

【山崎】　10月の会合だけじゃなくて、来月早々にあるIGF報告会でも、結局主催をどうするかという議論をしたときに、もう総務省さんは活発化チームのメンバーの一員として入っていただいているので、あえて後援していただく必要はないから……。

【加藤】　名前は出さないということになりました。

【山崎】　名前は出さないというか、活発化チーム主催でいいだろうという結論になったと思いますので、そういう意味では、今後後援というのを依頼する必要はないんじゃないかという気がいたしました。

以上です。

【加藤】　ありがとうございます。上村さん、もう一度お願いします。

【上村】　後援の件も私さっき思ったんですけれども、今山崎さんがおっしゃったとおりで、もうそういう形ではしないという方向にするということだと思うんです。つまり、役所からの後援を取って、任意団体である限り、役所からの後援を取って云々ということは考えないでおきましょうということだと思うので、それは当然の帰結として含まれると思います。

それから、この間プログラム委員会をいろいろやって思ったんですけれども、あの作業、チャージしたら相当な金額に私的はなると思います。プログラム委員会全体だと、多分何百万という金額をチャージし得る働きだったと思うので、そういう意味では、何というのかな、ちょっと今の形で主催って載っていると、正直言って私はボランティアとして参加する意欲が減退するなと、この間思ったんです。なので、そういう意味でも、まず主催は外して、それ以外のクレジットを表示するのは必要に応じてするということを考えてもいいんじゃないかと思います。

以上です。

【加藤】　ありがとうございます。上村先生の御指摘はもうそのとおりで、本当であれば活発化チームもそうだし、将来タスクフォースがそうなるかどうかですけれども、きちっと法人化して、事務局もお金が集められて、ちゃんとしかるべきサービスに対して、どれだけ払えるかは別にして、きちっとそ

の貢献に報いるというような仕組みをつくっていくべきだと思います。なかなかそう言いながらも、そこに行かないので。

【前村】　すみません、ちょっと1つだけ。恐らくは確かに上村さんのおっしゃっていることは理解していると思うんですけれども、例えば、じゃあプログラム委員会をやって、プログラム委員会の働きはそれくらいバリューがあるということで、それじゃあ運営法人から何百万か支払われるということにはならないと思うんです。それはいろいろなインターネットのイベントというのは、そういうふうにコミュニティーのボランティアで成り立っているというところはありますので、そういうところでそれではペイされているかといったら、ほとんどされていないと思うんです。それくらいの、お金に換算したらそれくらいのバリューがあるというのはとても賛成するんですけれども、ちょっと、今ちょっと半分ぐらいは聞き捨てならないなというか、ちょっと違う。

【加藤】　前村さん、多分それはちょっとニュアンスがあれで、上村さんももう同じようなことをお考えだと思うんですが、例えば前村さんや山崎さんやJPNICさんの貢献、これは無償の貢献ということになると思うんですけれども、こういう事務局的機能をプログラム委員会もすごく事務局的機能をやっていただいたと思うので、本来であれば、もう少しきちっと事務局として専従なりできる人がいて、そういう人がやってもらうべきことをみんなボランティアに、今でも申し訳ないんですが、ボランティアにみんな任せているわけじゃないですか。

【前村】　すみません。そういう意味ではちょっと言い過ぎているのかもしれない。

【加藤】　いやいや、そんなことないと思います。だけれども、その部分はやっぱりきちっと認識をして、しかるべき報いる方法を考えていかなきゃいけないと、僕はそれは多分皆さんが同じお考えだと思いますけれども、そこは。

【前村】　私のポイントがどの辺にあるかというのを申し上げると、組織化のときにもプラットフォームをつくりましょうと。運営団体をきっちりして、そこでNRIをやるベースの事務局機能というのはちゃんとペイしたほうがいいですよね、ちゃんと専従の人を置きましょうと、それを目指しましょうと、こう言っているので、その上でMAGというふうな感じのところで、コミュニティーの方々がプログラムの編成をするというところに関しては……。

【加藤】　そこは無償ですと。ボランティアは無償ですという。

【前村】　それはやっぱりボランティアだと思うんですけれども、確かにこの前のプログラム委員会は、もう少し手を出して、ちょっとロジをガシガシやっていたようなところがあるので、それは確かにね。ちょっとそれが余分だったなと。

【加藤】　プログラム委員会もそうですし、もう前村さん、山崎さんがやっていただいていることはまさにそうなので、日々申し訳ないとは思っていますけれども。

【前村】　ちょっと言葉が拙くて申し訳ありません。

【上村】　すみません、私も一言。先ほどの発言は、金を払えというところに主眼があったのではなくて、やっぱりそのボランタリーなワークフォースとか、知見を集約するのであれば、何というんです

か、その人たちがやりやすい箱をつくるべきだというところで。

【前村】　そうですね。おっしゃるとおりです。

【上村】　JPNICがなさっている各種イベントにボランタリーに参加する方がいるというのも、当然それは分かった上でそういうことをなさっているんだったらフェアだと思うんですけれども、ちょっと今のやり方だと私は二度はできないなと思っちゃったもので申し上げました。

【加藤】　とにかく改善をするということで、見捨てないでいただきたいと思いますけれども。

この話はよろしいですか。一応流れとして、どっちかというと活発化チームが本来お声がけをするという報告会等の形式に、今後は持っていったらどうかなという御意見が強いのかなと思いますが、ちょっとこれは次回までに、経緯や、特にJPNICさん、JAIPAさんのお考えももう一度整理していただいて、次回、最終的に決めるかどうかあれですけれども、次回にもう一度議論するというふうにさせていただきたいと思います。今日この場で、何か結論が出ないと思いますが、大変有意義な議論をしていただいたと思っています。よろしいでしょうか、それで。

ということであれば、一応この報告会のプログラムは、大体さっきのでカバーしていただいたと思うんですが、私が余計なこと言ったおかげでちょっと話が飛んじゃったんですけれども、最初のところで私のほうから挨拶をさせていただいて、高松さんにあとは司会として引き継いでいただいて、お二人の、ある意味じゃあ来賓の御挨拶をいただくというところをお願いするというところまでやらせていただいて、最後にどうもありがとうございましたという会の締めくくりも、もう本当に形式的にありがとうございましたというのを主催者として申し上げるというふうにしたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。

山崎さん、それでよろしいでしょうか。高松さん、お願いします。

【高松】　ちょっと全体司会をやらせていただくという部分でちょっと気になっているのが、全体のプログラムとしては了解しましたというところなんですけれども、最初の御挨拶のところの順番、今主催の加藤さんから入っていただく、これは絶対一番最初がいいと思うんですが、タスクフォースの江崎さんと、日本政府のどなたかの御挨拶って何か、順番がもしかして内容にもよるんだろうかとか思ったんですけれども、その辺り調整いただいているのは山崎さんなんでしょうか。お任せする感じで。

【山崎】　はい。ただ、どちらが先かというところまで深くまだ考えていられなくて、もし高松さんが御希望があれば、それで合わせますけれども。別に民が最初でなきゃいけないとか、官が最初でなきゃいけないとか、そういう考えは特にないんですけれども。

【高松】　ちょっとお話しされる内容にもよるのかなと思うんですけれども、つながり上特に、何というか、ばらばらな内容でそれぞれがメッセージをという形なのであれば、今いただいているこの順番でもいいのかなとは思っており、私としては強い意見は特に、順番についてはないです。もし参加されているほかの皆様から、こういった順番のほうがよいのではというのがあれば、何というか、頭の挨拶のところでもしかしたらイベントイメージにも関係するかもしれないところかと思いますので、御

意見いただけたらなと思います。

以上です。

【加藤】　そこは恐らく内容的に今、こういう流れではないといけないということは考えていないと思いますので、山崎さんと調整していただいて、特に事前録画であれば、録画を流していただくタイミングはどちらのほうがいいかというようなこともあるかもしれないので、それで順番は決めていただいていいんじゃないでしょうか。

【山崎】　分かりました。じゃあ考えた上、最適なようにしたいと思います。

【加藤】　そうですね。

【山崎】　録画ですので、どちらからでも、先でも後でも流せますので。

【加藤】　多分そうなんでしょうね。ということで、高松さん、私ずっと当日行っていますので、事前に必要であれば、次ここまで高松さんでお願いしますというようなことも、最初のところ、特に出だしのところできると思いますので、よろしくお願いします。

【高松】　よろしくお願いします。

【加藤】　じゃあ、ありがとうございます。これで山﨑さん、プログラムについてはよろしいでしょうか。報告会。

【山崎】　はい。全て終わり、終わったと理解しています。

【加藤】　ありがとうございます。じゃあ、先ほどから河内さんのお名前を拝見していましたので、ちょっと戻って、MAGのほうがいよいよ3月のMAGのスケジュールも決まったようですし、河内さんから何か御報告いただくことありますでしょうか。お待たせしました。

【河内】　この間、山崎さんから皆さんに回覧というか、メールを送っていただいていると思いますけれども、今年のMAGのタイムラインのドラフトが発表されています。今ちょっと加藤さんおっしゃられましたけれども、1回目の会議が3月の8から10に、リーダーシップパネルの会合が何かウィーンでもともとある予定になっていて、それに合わせてリーダーシップパネルともミーティングを持てるという目的もあって、そこでやるということになったはずです。実はいろいろな、何かパリのユネスコの会議と一緒にするとか、いろいろあったんですけれども、投票した結果、最終的にはイーブン、投票数同じだったらしくて、最後はチェアが選んだということでした。

これ今映していただいていますけれども、それがこの一番左側の一番下です。一番左側の一番下の1st IGF Open Consultations and MAG Meetingです。この先、もう既に1月末まで、その上ですけれども、1月末までにThematic Inputの募集とか、この先予定がされていますが、恐らく2回目、そんなに大きくずれていない感じですよね、去年と。ワークショップの締切りも、ワークショップの……。

【加藤】　思ったよりゆっくりの感じだったですね。

【河内】　そうなんです。あんまり、そんなに大きくずれていない。大きく前にずれていないかなという印象です。

【加藤】　そうですね。

【河内】　はい。ただ、この後ろのほうは随時少しずつ、やっぱりもうちょっと早くやらなきゃと思って早まる可能性とかもあると思うので、まだ分からないですけれども。ということで、ちょっとまだその段階で、あまり報告する内容がなくて申し訳ないんですけれども、そのぐらいです。

【加藤】　このThematic Inputが1月末、あした締切りであって、3月のMAGでは大きなテーマを決めるということで理解していればよろしいんですか。

【河内】　そうですね。去年も2月にあった、去年はバーチャルでやったんですけれども、テーマ、案がもう出てきていて、案についてみんなでディスカッションして、その中から1つの一番大きなテーマというのを、それも事務局から提案が出されて、それについて議論して、多少リバイズというか、修正して、一番の大きなテーマにして、その下の幾つかの、去年4つあったと思うんですが、4つのテーマについても議論されて、修正が加わるなりすると思います。去年はそうでした。

【加藤】　ありがとうございます。いかがでしょうか。河内さんに御質問とかございますか。御要望とかもしあれば。

【河内】　本当にできるか分からないですけれども。

【加藤】　よろしいですか。もしなければ、一応後で思いついて御質問ということもあるかもしれないですけれども、取りあえず、それじゃあ河内さん、ありがとうございました。

【河内】　よろしくお願いします。

【加藤】　じゃあ今度のイベントの件が終わって、2023の広報、これはあれですね。先ほどの、前村さん、タスクフォースのほうからいろいろ声をかけるということと関連しているんですけれども、何かコメントいただくことありますか。

【前村】　今タスクフォースのほうの施策もちょっと考えている最中のところで、ちょっとコメントのしようがないです。ごめんなさい。

【加藤】　今のスケジュールでいうと、4月から5月の20日ですか、そのときに具体的なセッション提案があるので、もう本当に2月、3月、これからいろいろやりませんかという声をかけていくという、参加しませんかということがあると思います。

【前村】　タイムラインにちゃんとミートするように、タスクフォースとしての打ち出しも考えていかなきゃいけないですし、そのためには何か検討体制を考えなきゃいけないし、それに合わせて、活発化チームとしてもそういうふうなフォーメーションをつくっていかなきゃいけないということだと思うんですけれども、今日、今ラフにでも何かがあるというわけでもないので申し訳ないです。今後頑張っていきましょうということぐらいしかなくて。

【加藤】　これも同じで、タスクフォースのインプットとも同じで、この活発化チームからこういうところに声をかけたいというのをぜひ言っていただきたいと思いますし、さっきの実積先生から、ビデオを見ていただいて、ああいうものを活用するということも今後できるので、ぜひいろいろなところに声をかけていただくという御提案とか、こういうことやったとかいうのをやっていただければと思います。

繰り返しになりますけれども、前村さんと私、今日お出になっていなかったかもしれませんが、西潟課長とかで、JANOGで若い人たちが中心にコメントしていただくセッションに参加する機会があったんですけれども、そういうのでは結構反応があって、こうやって声をかければ興味を持ってくれるなという、何かそういう実感があったものですから、ぜひいろいろなところに声をかけていただくということを積極的にやっていただければと思います。ということで、これ引き続き、前村さん、次回もアジェンダ事項としてお願いいたします。

【前村】　はい。かしこまりました。

【加藤】　じゃあ、このアジェンダでいうと、9、10はまとめ的なことなんですが、11のところにその他として、ちょっと3つほど入れていただいておりますけれども、山崎さんから書き込みをいただいた、NRIとして日本から、京都で10月に行うまで、日本のNRIがいろいろグローバルのNRIとの連絡をやってもらえないかという、そういうことを期待しているというのは、何かラブコールがあったんだと思うんですが、山崎さん、そういうことですよね。

【山崎】　前回、23日でしたっけ、NRIが集まって電話会議があったみたいなんですけれども、その……。

【加藤】　そうですね。議事録の中にね。

【山崎】　メモを見ていますと、ジャパンIGFをエンゲージするとか何とか書いてありました。こちら側が連絡がつくようになっていたほうが、今後いろいろ、ほかのNRIやら、IGF事務局から連絡があったりしたときに、物事がスムーズに進むんじゃないかという気がしました。という感じですかね。

【加藤】　ありがとうございます。その書き込みに対して、私今日貼らせていただいて、山崎さんから皆さんに送っていただいたんですけれども、このNRIをどうするかというところは、3つほどポチがありますが、当面NRI、日本の状況を日本側からは発信するというところがないので、日本でいろいろ活動しているんだけれども、それが見えないというコメントが、前回IGFの事務局とミーティングをやったときにもあったんです。我々はNRIのほうで、こういうミーティングがあってこんなことが議論されたというのは、メールベースでは、皆さん、この中の何人かの方も受け取っていると思うんですけれども、一方で、日本でこういうことをやっています、例えば2月9日にこういう報告会やりますという、そういうこと自身もないので、IGFのウェブサイトの日本のNRIの状況を見ると、アップデートが全然できていないという状況だと思います。活発化チームの中でこれを何かサポートするとしたら、有志が手を挙げていただいて、誰か、交代でも、今回はということでもいいですけれども、一言でもいいから、こういう活発化チームがこんなミーティングをやったとか、日本でタスクフォースが立ち上がったとか、そんなことを言ってあげられる仕組みがあるといいなと思うんですが、いかがでしょうかということでございます。

実際は、誰か1人に負担が行くというのは大変で、ウェブサイトを見ますと、今でもインテリムいう形で上村先生の名前が書かれているんですけれども、例えば三、四人でもいいですが、コンタクトパーソンを出せれば出したほうがいいかなとも思うんですけれども、その辺も含めて、皆さんの御意見をいただきたいなというので、これを議題にさせていただきました。いかがでしょうか。

これ言って沈黙になってしまいますが、本田さん、お願いします。

【本田】　まず質問なんですけれども、「タスクフォースに引き継ぐか？」って書いてあるんですが、タスクフォースというのは、いわゆる日本での開催、IGFの開催についての時限的な、何か組織だというふうに聞いていたと思うんですけれども、あくまで、何というんですか、総務省に対する助言とか云々ということだというふうに聞いていたはずですが、そこにいわゆるナショナルIGFのコンタクト先とはいえ、そういう機能を持っていこうという話が出ているんですか。

【加藤】　いや、出ていません、まだ。出ていないので、だけれども、もしタスクフォースがもう少し恒久的なものになっていくとしたら、そういうこともあるかなということをちょっと先走って書いただけなんですけれども、そういう意味で、今ちょうど設立趣意書を書いていただきますが、今後別途検討しますと。継承活動については別途検討する考えですと、最後のパラグラフにありますけれども、2023年以降はまだ、そういう意味では、前村さん、白紙と言ってもよろしいんですか。参加される方はいろいろと、ぜひ継続したいと思っているけれども、それをこういう形で継続するという議論は運営委員会でまだなされていないので、そこは我々がこうなるだろうということを勝手に予測して言うわけにもいかないと思うんです、今。

【前村】　はい。まだまだだと思います。

【加藤】　そうですね。だから、そういう意味では、今現実的にこれを担うとしたら、活発化チームの有志ということにならざるを得ないのかなと思います。そういう意味で、1人の方に負担とか、どこまでやるのかということを考えると、これ大変なんですけれども、何人か、自分も名前入れておいてもらって、必要なら何かコメントするぐらいのことはやってもいいというようなことを、手を挙げていただく方がいれば、そういうやり方もあるかなというのが、今現実的な方法かなということで、3つ目のポチ、「グループで共同で対応するのが良いと思う」というコメントです。

【本田】　じゃあ具体的なイメージとしては、何か複数名の、例えば3人とか、プラスJPNICの事務局からとか入っていただいたメーリングリストみたいなものをつくって、それをコンタクト先として連絡すると、そういうような感じでしょうか。

【加藤】　そうです。

【本田】　分かりました。

【加藤】　実際メーリングリストがあって、これは私なんかも受け取っています。先ほどの山崎さんと同じのは受け取っています。大量にいろいろな人からのメールが来るんです。

【前村】　すみません。ちょっとタイミングが悪かったかもしれないです。加藤さんの言うことを全て言い切ってからのほうがいいかもしれないですけれども、大丈夫ですか。

【加藤】　大丈夫です、どうぞ。

【前村】　これ、こういうふうな提起というのか、問いかけありがとうございます。私の理解を申し上げると、タスクフォースは、今NRIとして動くものにはなっておらず、それは活発化チームの組織化というふうなアジェンダでお話をしていた部分をIGF 2023の後につくろうと。その組織化、運営母体をつくるというところで、そのタイミングでは何らか考えるかもしれないけれどもというふうな状態だと思いますので、今時点でNRIとして動くというのか、NRIのために動くというのかというのは、活発化チームなんだろうなと思います。

デファクトということでもあるんですけれども、実態としては、ジャパンIGFのコーディネーショングループとして名を連ねている人たちがほとんど、全てこちらに参加しているということで、活発化チームはジャパンIGFの輪を広げようとしてそもそも始めた団体でもあると。前に私自身、活発化チームがNRIとして動きますよというふうなことは、何かのタイミングで言おうとした、あるいは実際に言ったことがあるのかもしれないんですけれども、今、活発化チームがジャパンIGF、NRIだと言えないというのは何かというと、NRIとしてのチャーターとして、きちんとアップデートされてできていない状態だというふうなことなのでということだけが障壁だと思っているんです。それ以外にもちょっとあるかもしれないんですけれども、だけがというよりも。というふうな状態なので、今活発化チームでNRIとしての、例えば問われたことに答えるとか、あるいは何かの情報の提供を外に出してやるとかというのを活発化チームがやるというのは、これは妥当なんだろうなと思うところです。

以上です。

【加藤】　ありがとうございます。僕も現実を考えると、そういうふうに考えざるを得ないのかなと思って、こういうことをコメントさせていただいたんですが、今日すぐ決めるとか、こう手を挙げるというのは大変なあれですけれども、今NRIのほうでいろいろ行っているやり取りのメールを受け取っておりますので、最低限、日本からこんなことをやっていると。2月9日に報告会をやるとか、その1行でもいいので、何か書くぐらいのことを私もやってみようかなというか、ほかにやっていただく方がいればあれですけれども、手を挙げるしかないかなと今思いつつあります。ぜひ、私も参加するという方が手を挙げていただければと思います。1人で引き受けるのはあれですけれども、何人かでというのであれば、やるという方が手を挙げていただければと思います。

それと、これ急に振って、名指しで言って大変失礼なんですが、河内さん、MAGということで、ある意味ではMAGの役割というのは、日本とIGFの事務局をつなぐ側面があるのかなと思います。そういう意味で、側面からでも結構ですけれども、ぜひ御支援いただければありがたいなと、勝手に、突然振って恐縮なんですが、思っています。

【河内】　分かりました。何したらいいかとか、ちゃんと教えていただければ。

【加藤】　というか、何がということはなくて。まずNRIのメーリングリストに入ってもいいよというぐらいで、手を挙げていただく方がいればいいのかなと思います。

【河内】　私、分かりました。

【加藤】　ということで、この議論としては、MAGの、ごめんなさい、活発化チームの有志が共同で対応するということで、今後有志を募りますというのが今日の結論でもよろしいですか。皆さん、いかがですか。その有志というのは、NRIのところでコンタクトパーソンとして、共同でいろいろなやり取りを受け取って、できれば日本側からの情報発信をするということです。実際そんなに大変な業務ではないのかなと思うんですが。

本田さん、お願いします。

【本田】　ほかにも検討される方がいるかもしれないので、ちょっと質問しておきたいんですが、結構メールが来てということなんですけれども。

【加藤】　そうです。

【本田】　そのメールは、要するに向こうから一方的に投げ込まれるようなものが大半なのか、それとも、例えばアンケートなり、回答なり、都度都度こう返さないといけないようなものがあるのかどうなのか。

【加藤】　もう返すことになったら、もう全てのメールに私はそれについてこう思うというふうに言わないといけない。みんなの、何ですか、意見を言う場になっているという感じです。

【本田】　まあ、じゃあそのレスポンシビリティーとしては、ある程度言わないといけないようなことが出てくれば言うという感じですか。逆に言うと、連絡係が複数いるんだったら、その中でも何か打合せをしないといけなくなったりするのかなとかって、必要に応じて、思ったり。

【加藤】　いや、そうなると思います。

【本田】　ああ、そういうことですね。分かりました。

【加藤】　ということで、これ今決定することはできないと思いますが、ぜひ。全くやりませんというふうにも、今年やはり秋に日本であるということを考えると、何かNRIとの連携というのは、最低限でも情報発信したほうがいいと思いますので、ぜひ有志を募るということで、今日のところはお願いしたいと思います。

ということで、もう1件、活発化チーム、今の点よろしいですか、それで。もう1件、活発化チーム会合の開催頻度という名前になっていますけれども、開催頻度の問題よりは、1つは前から本田さんがよく御提案いただいたんですが、この活発化チームの会合も、こういう事務的なことを中心に議論しているんですけれども、それに加えて、どうせ2時間やるなら、事務的なことは極力時間を限定して、1時間程度具体的なテーマについて意見交換をすると。場合によっては、そんなに深く突っ込んだ準備を物すごくやってやる勉強会ではなくて、簡単に頭出しを誰かにしていただいて、あるテーマについてみんなが意見を言い合うとか、これはこういうことで重要だよねと。これからいろいろな、日本からもセッションの提案をするとか、そういうことの参考になればいいと思うし、実際セッションを提案しないにしても、10月に実際の会合で聴衆として参加してコメントするという、そういう内容につながっていってもいいと思うんですけれども、そういうことをテーマを決めて意見交換をする時間を取ったらどうかなということでございます。で、会合も、原則1か月に1回か、もう少し、1か月半ぐらい

でもいいかもしれませんが、そういうスパンにして、今度の2月9日の報告会の後、いろいろ地固めができてきているので、すごく頻繁に何かを決めなきゃいけないということは、むしろないのかなと思いますので、開催頻度も今の3週間に1回ではなくて、1か月に1回か、もう少し長くてもいいのかなと思います。というのがこの議題の趣旨ですけれども、いかがでしょうか。

高松さん、お願いします。

【高松】　何か私ばかりいろいろしゃべっているような図になっているんですけれども、今言おうと思ったことをメールを見返すと、本田さんがメールに投げたことと若干似たようなことになってしまうかもしれないんですが、まず管理運営的なことを1時間で、テーマ的な議論を1時間といったアジェンダに、今後この活発化チームの会合をするのはどうかという点についてなんですけれども、私は単に運営的な話をする会と全然別で、具体的なテーマを話すミーティングというのを設定したほうがいいんじゃないかなと思います。そうすると、その具体的なテーマに合わせて、集まる人が集まりやすい時間にみたいな設定の仕方もできてよいのではないかなと思ったのと、テーマ議論をしたいというのと運営系の話をしたいというので、2時間という枠をどっちかが取るみたいな感じに、今日も1時間半ぐらいこのミーティングをしているわけなんですけれども、1時間半したせいで、テーマの議論が残り30分しかできなかったみたいなことになるようなのもよくないかなと思ったので、そういう意味で会を完全に分けて設定するのがよいのかなと思います。

もう一つ、活発化チームの会合の頻度のほうなんですけれども、私はちょっと主に管理連絡的なことの議論をする活発化チーム会合の頻度という点での意見になりますが、今後IGF 2023に向けて活発化チームがどう協力できるのかみたいな、そういった話をするのであれば、また、タスクフォースのほうは10月ぐらいには終息する、その先、じゃあ活発化チーム会合とどう関わっていくんだろう、その辺りをもしこの活発化チーム会合で引き続き議論していくのであれば、タスクフォース側のアップデートというのを入れながら、常に議論を進めていったほうがよいと思っていて、それが本当に1か月に1回で間に合うのか、適しているのかというあたりは、一度考えたほうがいいのかなと思いました。

長くなりました。以上です。

【加藤】　ありがとうございます。ちょっとファクトとしてお答えしますと、実はタスクフォースの運営委員会は1か月に1回なんです。だから、そういう意味では、アップデートされるのは、1か月に1回活発化チームがあれば、ちょうどタイムリーではあると思います。

それと、ちょっと私もここに十分書かなかったんですが、2時間のうち1時間それをやるというのは、別の日に2つ違った会合を参加するというのは、両方に参加したい人は結構大変、予定をするのが大変かなと思っていて、私のイメージとしては、このテーマについての議論は、最初の1時間それをやりますと。そちらのほうはもう1時間で切ると。残りの1時間、残って事務的な話をする方は1時間やっていただくと。場合によっては1時間で済まないで若干延びるかもしれませんが、これはこれからできるだけ心がけて、1時間で終わるように心がけたいと思いますので、イメージとしてはそんな感じで、御指摘のとおり、そのどちらかにだけ参加するという方は、明確にこの時間からスタートするというのが分かる形で2時間を配分するようにすべきだと思います。

それと、テーマに基づく議論というのはオンラインだけで、特に事務局がオフラインの準備をして

いただくと、そういうことが一切ないように、Zoom会議だけで全部できるようにというふうに考えています。

以上、ちょっとクラリフィケーションでした。

【高松】　ありがとうございます。

【加藤】　本田さん、お願いします。

【本田】　管理運営ということについていうと、何というんでしょうか、私の持つイメージだけを言いますと、言わばこの定例会合、あえて定例会合というふうに言いますが、それは、この日本の活発化チーム全体が今どうなっていますということ、プラス直近の何かテーマですね。そういう月ごとのアップデート、そんなようなイメージを持っています。管理運営をここで事細かに議論するというよりも、例えばプログラム委員会というのは別出しで今までつくってきましたけれども、こういうふうなプログラムの組成とかについては、その都度で組んでいくのか、ある程度ずっと同じ委員会にするのかというのはまた別の話ですが、別のプログラム委員会にある意味お任せをしているわけなので、その中のことについてあまり事細かに、この定例会合であまり取り上げる必要はないのかなと。単純な報告ということと、プラス何かコメントがあれば程度のことで、あまり微に入り細に入りというのは必要ないのかなと思っています。むしろ全体の動きとして、例えば今後組織として広報活動を展開していくときに、広報班というか、広報委員会みたいなものがあって、そうしたらそこからの報告もあり、じゃあ別のトピックからも報告がありという、そういう個々の動きを全体総括していくという形であればいいのかなと思います。そこに至るまでは、もちろんある程度ここのところで決めていくことも、引き続き定例会合で決めたりしていくこともあると思うんですけれども、目的はやっぱり日本の活発化チームがどう動いているか、どう動いていくべきかというところのマンスリーのアップデートというふうなものが、イメージとしてはありますということです。

それと、ついでながらその具体的テーマのほうも、特段に準備をしない回というか、ある程度ラフに話し合う回もあってもいいだろうし、一昨年度、おととしのような形で、例えば研究をされている方々とか、ビジネスの方とか、そういう何かゲストスピーカーみたいな方が来ていただいて、それに対して質疑応答というような会もあってもいいのかななんていう、アイデアとしてはそういうところです。

【加藤】　テーマについての議論というのはそういう感じです。ゲストスピーカー的に、こういうことを研究されているという方が最初10分、20分、もう長くてもいいですけれども、お話ししていただいて、それについて質疑応答、意見交換をする。それでトータル1時間を前半の1時間とすると。後半の1時間は、今日もやっているような、こういう会を引き続き参加する方が残っていただいてやるという、そういうイメージです。

【本田】　そうですね。

【加藤】　いかがでしょうか。何かほかの方々で御意見ありますでしょうか。ぜひ、ここにいらっしゃる方は、皆さんそれぞれ何かテーマをお持ちなので、1回目は自分がやるとかというようなことを言っていただくと非常にありがたいと思うんですが。これまでもこのこと、特に本田さんが御提案何度もされていたので、私は非常にいいアイデアだなと今思っていまして、活発化チームもあまりこう、事

務的という言葉は語弊があるかもしれませんが、そういうことだけではなくて、実際IGFの中身についての議論ができる場にするということも重要で、それを継続してやっていくというのは意味があるかなと思いますので。もしよろしければそういう方向で検討させていただいて、山崎さん、これそういうふうにやるということは、一応あれですか。提案をして、皆さんの意見、ラストコールにかけるとか、そういう、運営に係る重要なことなので、やったほうがいいですか。

それと先ほどの……。

【山崎】　それはやったほうがいいでしょう。

【加藤】　それで活発化チームの、先ほどのチャーターにも少しそういうことを書いたほうがいいかもしれないですね。そういう会にするということを。じゃあ、ちょっとそのことをまた山崎さん、相談させていただいて、具体的にそういう会とするということを御提案して、このメーリングリストで出して、必要であれば次回の活発化チーム会合で最終承認して、できればそのときにそういう方向になれば、今度2月だとして、3月の会合で1回目をやってみるというようなことができればいいかなと思っています。

【実積】　すみません。実積ですけれども、いいですか。

【加藤】　はい。

【実積】　その提案の趣旨がよく、いま一つ理解できていないんですけれども、活発化チームは勉強会みたいなものに変質させましょうという御提案になるんですか。

【加藤】　勉強会的なものという意味では、まさに実積先生に1回目をお願いできればありがたいんですけれども、実積先生の御研究のテーマで最初20分ぐらい御報告をいただいて、1時間そのことについて議論をする場とするということで、活発化チームのこの会合が、そういうことなら参加するという人は最初の1時間の部分出ていただくとありがたいなというイメージです。で、残り、残っていただく方で、今日のような運営に関わることは継続して議論するということで、2つのパートに分けるという趣旨です。

【実積】　協力をするにはやぶさかじゃないというのを前提にした上で申し上げますと、もう私、ずっとこの中身に関しては興味を持って見ているので、別なんですけれども、多分普通の人は話しに来ないと思います。理由は、参加されている方がその人にとってオーディエンスじゃないからです。つまり、本当に聞いてほしい人は、私のケースでも、例えば中立性の話をしても、皆さん中立性のことを知っている人ばっかりなので、ここで議論しても新たな知見というのが得られるかどうか若干疑問があるというのが1つと、それから活発化チームという枠内でやるということの目的を、何かちょっと見失いつつあるなという正直な感想を申し上げます。なぜかというと、活発化チームの目的というのが、当初の目的が、日本におけるIGFの議論を盛り上げるということであったというふうに理解しているんですけれども、この場で、私が中立性の話をして、前村さんがインターネットガバナンスの話をしても、知っている人に知っている人が話して、何かもうちょっと知的関心を得ようというのであれば、ここの場というのは全くふさわしくないと思います。理由は、新しい人を呼んで、何だろうな、大学生を集めてしゃべるとか、全く興味ない人が来て、可能であれば、11月でしたっけ、IGFの本番に京都に来て

ねというふうにつなげればいいんでしょうけれども、ここで皆さんに話しても、どうせ来るんだろうなという人なので、詳しくは本番でということしかならないような気がしているので、ほかの人にとっては、多分インセンティブが湧かない会なんだろうなと思っています。

【加藤】　ありがとうございます。

【実積】　もう1点。もう1点話すと、先ほど高松さんのほうから時間足りますかという話があったのは、僕まさにそのとおりだと思っていて、11月にやるときに1か月1回でこうやっていってということを考えて、要は人を集めなきゃいけないんだろうなと思っています。この間GPAIという全然別枠の会合があって、政府がいろいろお金を出してやっているんですけれども、政府の関係者は当然来ているんですが、一般の会議の人が、AIという非常に興味を持った会合だったんですけれども、ほぼほぼ来なかったという状況があります。同じことが京都であると大分格好悪いなと思っていて、翻って考えると、そもそもこの活性化チームの目標は何だったんだろうなと思う中で、我々の知見を高めるというような目的ではちょっとなかったのにもかかわらず、何かそこで時間を取るのはもったいないんじゃないかというのは思いましたということです。何かしゃべれということだったら、もちろんしゃべることは御協力いたします。

以上です。

【加藤】　ありがとうございます。

堀田さん、お戻りになって手を挙げていただいたので。

【堀田】　すみません。随分参加遅れたんですけれども、1部、2部というのを、両方ともやったほうがいいというのはそのとおりだと思います。テーマ議論については、IGCJが二、三か月に1回やってきて、テーマが尽きて人がいなくなったというのが現実なので、そこを何か打開する手だてを我々は持っているのかというのが1つあります。で、人がいなくなったというのは、実積先生がおっしゃったようなポイントも多分あるんだと思うんですけれども、まず、テーマ議論で人を呼ぶというのはそんな簡単じゃないぞというのが1つあって、どうやって面白いテーマをつくり出すか。しゃべれる人しゃべってくださいでは人は来ないだろうなと思うのは1つの観点で、もう一つは、タスクフォースが10月に終わるとすると、それは終わったときにNRIというのがちゃんと動いてなきゃいけないというのはもともとの定義だったと思うんですけれども、活発化チームの運営面のほうで、つまり組織化のほうをちゃんとTFと一緒に協力しつつ、この半年で立ち上げるというのは、1か月に1回、1時間話せばできるとかというものじゃないように思います。だから、TF側とどうやってNRIをつくるかという話を真剣にやらなきゃいけなくて、それが1時間話をすれば済むような、そのスケジュール感とか、アジェンダづくりとかというのは、これどうやってやるんだろうなというのが、もう一つ、とっても難しいけれどもやらなきゃいけないことだと思います。ということで、難しいことばっかり言ってすみませんけれども、そう簡単じゃないぞという感覚を持っています。でもやらなきゃいけないということも分かっています。

【加藤】　ありがとうございます。今の堀田さんと、その前の実積先生のものにちょっとコメントさせていただきますと、今このタスクフォース、今日も今16人の参加者って出ていますけれども、そういう程度なんですが、実際は登録しているのは、山崎さん、175名ぐらいでしたっけ、今でも。

【山崎】　今日時点で175でした。

【加藤】　そうでしたね。だから、175名の人は、潜在的にはこのメーリングリストに入っているので、その中でも、こういうテーマの議論があるならもうちょっと聞いてみようという方が1時間分だけ聞いてもらえば、それはそれで、この活発化チームの場というのは意味があるかなというのが私の最初の動機なんです。それで、実積先生、そんなに人来ないと言うかもしれないですけれども、175人の人は、一応何かこういうIGF的なことに興味をお持ちの潜在的な人がいるのかな。今後やるとしたら、その後拡大するということを考えていけばいいと思いますので、そういうふうに活発化チームの場を少し拡大するというのが1つ。

それと堀田さんのコメント、100％そのとおりだと思いますので、私も毎月このテーマの議論ができるのか、2か月に1回にしたほうがいいのかというのはありますけれども、少なくとも10月の京都までに、何回かそういう、練習の場といったらあれですが、そういう場をつくっていろいろなテーマを周りの人にも議論してもらうことがあってもいいかなというのがもう一つの理由なんです。その2つを考えて、時間配分とか、やり方として、同じ日に1時間、1時間ではとてもできないというようなことをここで議論していただいた上で、堀田さん、どちらも重要だと言っていただいたので、ならどういう形でやっていくのかというのを決めればいいのかなと思います。

【実積】　すみません、実積ですけれども。誰の何に対する練習という意味でされているんでしょうか。

【加藤】　練習というか、そこで、京都に提案をするとか、IGFの……。

【実積】　IGFのCall for Paperって、その時間かけられないんですよね、多分。

【加藤】　はい。

【実積】　だから、先ほどの話だと、Call for Paperを今度のIGF……。

【加藤】　4月から5月20日ですね。

【実積】　ですよね。そこにつくってもらうためのという話で、先ほど上村さんのもありましたけれども、若手は来てもらって、それをセッションに立てればどうかというぐらいのスケジュールで動いているのが1つあって、議論していくというのは、そこに何かもうテーマがあって、そのセッションに参加してもらうというのを前提にという話になると思うんですが、そうするとセッションのテーマが決まってから人を呼ぶというようなスケジュールで考えておられるということには進まなくて、何となく面白そうな人を、何となくというのは語弊がありますけれども、IGF的に研究している人を呼んでしゃべってもらって、そこで準備してもらっても、当日連結しないと京都に来ていただけないですよね。何となくその意味で、タイムスケジュールは加藤さんの考えておられるタイムスケジュール、実際のCall for Paperと11月のIGFのスケジュールがどうもずれている感じがして、加藤さんはもっと長期の話を考えておられるんであれば、この活発化チームで枠組みの、目的変数と違うところに目的を置かれているような感じを、ちょっと印象を受けました。

以上です。

【加藤】　うん。ちょっと4月のCall for Paperの準備のためというふうには間に合わないというのは、もうよく分かります。皆さん、いかがでしょうか。

立石さん、お願いします。

【立石】　実積先生がおっしゃっていること、まさにそうだと思うんですけれども、少なくともここで、加藤さんおっしゃったように、ちょっとでも勉強会して、そういう話は国際的なものが京都で聞けるんだという人を集めるという意味では、意味があるかなと思うんです。もう分かっていて、パネルに出るような人を今から集めるというんだと、多分実積先生おっしゃっているように、もう今からそんなとんでもない、時間がないよという話だと思うんですが、僕でも大学でも話していますけれども、それ聞いて、ああ、京都で聞けるんだったら行ってみようという人を、人寄せパンダという言い方は本当はあれですが、こういう話を国際的にやるのが今年は京都でたまたまあるんだから行ってみようという人を集めるための呼び水に、それを今170人でしたっけ、150人でしたか、いらっしゃって、その中からでも、あるいは、それは我々のあれにもかかるのかもしれませんけれども、次の会はこういう勉強会をするから聞いてみないといって、1人でも引っ張り込める機会になるのであれば、それはいい機会になるのではないかなとは思いました。

以上です。

【加藤】　実積先生、お願いします。

【実積】　立石さんの作戦というのは、私もいいと思うんです。ただ、それをすると、Call for Paperをした後にセッションが決まるというか、その中からテーマを選んであげないと、行っても聞けないということになりかねやしないか。あるいは、勉強会の主体の人が必ずCall for Paperに出しますというふうなトラックを想定して動かないと、勉強したんだけれども、実際そのセッションがないとかいうことになると、ちょっと問題かなと思った次第です。

【立石】　多分それは、おっしゃるとおり、そうは思うんですけれども、それはもう時間的なものも含めて、あるいは何だっけ、運もあると思うので、100％京都で話されるわけない、でも、日本からの話じゃないかもしれないが、多分ここで話されることって、きっとどこかで誰かが、日本人は関わらなくても話すと思うんです。必ずしも京都でその話があるわけじゃないということはお断りした上でいいんじゃないかなと、私は思いましたけれども。

【加藤】　ほかの方いかがですか。もう一つは、今の立石さんのお話を伺っていて、今後タスクフォースでもそうですし、先ほどの活発化チームでもそうですが、いろいろな方に10月の京都に参加しようよ、してくださいよということを伝えていくためにも、こんな会があって、それに関連した人たちが集まって会をやっていると。1回どんな、例えば1つ、テーマの議論をしているか見てくださいという場としてもいいのかなという気もします。

いかがでしょうか。何か御意見、前村さんとか山崎さん、事務局として、そんなアレンジだけでも大変だとか、そんなことってありますか、これ。

【山崎】　全部こちらに丸投げされるとかなり大変なので、参加される方はこういう人を呼びたいと

かあると思うので、積極的に……。

【加藤】　そうですね。呼ぶ人に声をかけて、その人を調整するところまで全部、それも考えてということになったら大変ですよね。

【山崎】　誰を呼ぶのか考えてとか言われると、ちょっときついです。

【加藤】　それはきついですよね。

【前村】　すみません、もう少し明確に、無理です。だから、サブスタンスのほうはどなたかにコーディネートしていただくという、時間だけ空ける、そこはZoomの部屋を取るとか、そういう辺りはやらせていただきますけれども。

【加藤】　そういうことですね。

いかがでしょうか。ほかの皆さん。もし、いや、それはやっても意味がないとかやるとして、今実積先生が退席されたのですけれども。

【上村】　上村ですけれども、よろしいですか。

【加藤】　はい、お願いします。

【上村】　私もちょっと実積先生が最初おっしゃったことに共感するところがあるんですけれども、この場を勉強会にしちゃうというふうに見えるようなことをすると、何のために時間取ってやっているんだということにもなる一方で、確かにいい機会なので、前半聞いた人を後半につなげるというのはあってもいいかもしれないとは思うんですが、何かあまり異なるものを交ぜないほうがやりやすいという気もするし、あとこういう作業は、テーマを決めて人を探して、その人に交渉するというところが相当大変なので、そこが誰がするかはっきり決まっていない状態だと、やりましょうといっても何か空中分解しちゃうんじゃないかという心配があります。それから、何でもかんでも事務局たる、この会議の事務局たるJPNICに投げるのは、私は賛同しかねるので、もしその手当てがないのだとしたら、3月からというのは、3月からでしたっけ、次回からでしたっけ。

【加藤】　4月ですね、やるとしたら。次々回です。

【上村】　ちょっとそれが決まるまでは、いつから始めましょうとは言えないんじゃないでしょうか。

【加藤】　そうですね。いかがでしょうか、ほか。

本田さん、お願いします。

【本田】　ちょっと私は、IGCJのときと混同しているのかもしれないですけれども、この活発化チームでも、以前は何かもう少し、半分ぐらいはそういうことをやっていたような気がしたんですが、別に勉強会に全部すり替えてしまうということではなくて、とりわけその、何というか、過去の復習というよりも、今直近で起きている、そういうIGF絡みのトピックを議論のまな板で話し合ったりとか、そういうことと、もしくはそういった人選等の問題はありますけれども、我々のメンバーにまだ入ってい

らっしゃらない、そういう研究をされている方であるとか、ビジネスの方であるというのを交えていくというところにあるので、はっきり言って、じゃあそれをやったときとやらないときの違いというのを考えていくと、運営に興味がある、IGFに興味があるという人は、今もちろんこの場にいらっしゃっているんだけれども、現実に百数十人のメールメンバーの中で、10、最大20人程度という方がここに、Zoom会議に来られているわけで、じゃあ、何というんですか、仮に現状続けていくとしても、そのメンバーの中での活発化の運営ということの発展でしかないので、逆に言うと、新たな見解とか、新たな考え方とか、アイデアというのはもう出てこないことに実質なってしまうんです。なので、別に何か勉強会的なものを、もしくは何というのでしょうか、教育的な要素なのか、もしくは議論なのかというところはあるんですけれども、その部分をやらないとすると、新しい人は入ってこないし、それ以上のアップデートはないというふうにもなってしまう。だから、逆にやることの意味というのは、そこに興味を持ってコンテンツとして来てくれた人が、こういう内容だったらちょっともっと深くやってみたいとかいった中で、組織的なこと、活発化チーム、もくしはNRI、将来的なNRIの運営にも携わってくれる人材が出るかもしれないという、淡いかもしれませんけれども、期待を抱いて言っていることなので、それをはなから、何というんでしょうか、あれしてしまうと、諦めてしまうと、今後の発展というのはあまりないのかなと思うのが感想です。

【加藤】　ありがとうございます。

山崎さん、お願いします。先ほどから手を挙げていただいているので。

【山崎】　今の本田さんのコメントに対して、別に意見をというわけではないんですが、この活発化チームでサブスタンス、中身を扱ったとおっしゃっていたんですけれども、それは1回だけというか、厳密に言うと、この活発化チーム会合の外でやっただけで、内容について扱ったことは一度もないです。本田さん御自身の御提案で、たしかスプリンターネットでしたっけ、みたいなことをこの活発化チーム会合終了直後に、興味ある人が残ってやったというのが1回あっただけです。恐らくそれ以外、意見とかは特にありません。

以上です。

【加藤】　堀田さん、お願いします。

【堀田】　堀田です。本田さんおっしゃったように、IGCJが駄目だったからこれも駄目なはずだというのは、そういうことはなくて、特にIGCJやっていた頃は、テーマが尽きたというよりも、しゃべれる人がいるテーマが尽きたというのが正しいんですけれども、ということでサブスタンスができなくなったというのが、多分一番大きな理由なので、この3年ぐらいでテーマが移ってきているから、そのテーマに関してしゃべれる人がいて、聞きたい、話したいという人が集まってくれるのであればというか、それを願ってやるというのは、やらないよりやったほうがいいかなと思います。あとはそういうテーマを集めているというプログラム委員会、小プログラム委員会みたいなのがちゃんとつくれるかどうかということが勝負なんだと思います。

以上です。

【加藤】　ありがとうございます。今の御指摘のとおり、小プログラム委員会的なテーマを決めて声

をかけるということ、これは先ほどの上村さんの、具体的にそういう人がうまくリストできないとなかなかスタートできないということとも関係するし、山崎さんが言われた、事務局というか、山崎さんのほうでそれ全部お任せというんじゃあ、とても動かないというのもそのとおりだと思いますので、そういうことを含めて、例えばこういう方々、何人か声をかける方、こういうテーマというのはどうかというのもちょっと議論を進めて、次回やれるかどうか、具体的にもう一度議論するということでいかがでしょうか。

これ別に2023年10月まで頑張って、それで終わりという内容ではなくて、もしこういうようなIGCJでやっていたようなことがうまくスタートするなら、毎月じゃなくて2か月に1回でも、もちろん結構ですけれども、もっともっと頻度が低くてもいいと思いますが、そういうことをやること自身は意味があると思うんです。年次総会以外にそういう場を考えていくということで、活発化チームが活動していくというのは、それがタスクフォースとの関係でどうなるかというのは、その間議論しながら進めていく意味というのがあるのかなと思うんですけれども、いかがでしょうか。なかなか今日は決まらない、もう夜7時の予定の時間を過ぎてしまったので、できればこの議論はここまでで、全体として何かやることについては賛成なんだけれども、やり方とテーマを決めるとか、その辺の具体性が見えないとにわかには賛成できないという御意見だったかなと思いますので、次回までにその辺をもう少し詰めて、場合によってはメーリングでいろいろお話をさせていただくということにさせていただきたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。言い足りなかったこととかあればお願いしたいと思います。

じゃあそういうことで、これで本日の議題は全てカバーしたと思います。それで、実は次回なんですけれども、このままいきますと、3週間置きということになりますと2月20日になるところなんですが、1つここに書いていただいたように、私がちょっとどうしても外せない予定がこの日ありまして、できれば少し変えていただきたいというのが1つなんですが、もう一つ、2月9日のミーティングが、報告会があって、それでここにいらっしゃるかなりの方がコミュニケートできるということもあるので、1週間延ばして、次回は2月27日の月曜日とさせていただきたいんですけれども、勝手なお願いで恐縮なんですが、よろしいでしょうか。よろしいでしょうか。

じゃあ特に異議がないということで、次回は2月27日、できれば今日議論させていただいたような、活発化チーム会合として、今後もう少しIGCJの時代のようなことを考えていくというようなことについて御意見いただければと思いますし、次回の会議では、報告会の報告といいますか、反省というか、そういうこともテーマになると思います。

ということで、本日はこれでお開きにしたいと思いますが、何か最後に、もう時間10分超えていますけれども、コメントいただくことありますか。

もしなければ、長時間にわたって今日もありがとうございました。かなりいろいろ新しいことも議論できたと思います。ぜひ、引き続きよろしくお願いします。

今日はこれで終了させていただきます。ありがとうございました。

―― 了 ――